

ほんごう

国立富山工業高等専門学校同窓会会報

No. 10 2006年(平成18年)10月発行
〒939-8630 富山市本郷町13番地
国立富山工業高等専門学校同窓会
発行責任者 石山 彰雄
印刷 / 株式会社 宮越印刷

平成17年度 ほんごう会大懇親会



宮下校長の講演



小川先生
乾杯の音頭



新卒の同級生で



田知先生 万歳三唱

いっぺんこられまあー

ほんごう会大懇親会開催

(平成18年度総会)

場所 / 名鉄トヤマホテル

会費 / 30才未満及び女性 ¥ 3,000
30才以上の男性 ¥ 5,000
新 卒 者 無 料

恩師の先生方にも御案内しています。

本年度に着任された

米田 政明 校長

NEDO フェロー 高松 さおり さんが出席されます。

11月3日(金・祝)

PM5:00~ 講演会

米田 政明 校長
高松 さおり さん

PM6:00~ 懇親会 (総会)

詳しくは富山高専

TEL (076-493-5468) 中島教官

FAX (076-492-3859)

E-mail: nakajima@toyama-nct.ac.jp

なお出席の方は同封のはがきにて、

10月31日までにお知らせ下さい。

多数の参加をお待ちしています。

ご挨拶

—新たな飛躍を目指して—



校長 米田 政明

富山高専同窓会の皆様には益々ご健勝にてご活躍のことと存じます。日頃から皆様の母校富山高専に対し暖かいご支援とご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

私は、宮下尚前校長の後を受けて、今年4月に歴史と伝統のある富山高専に赴任しました。3月までは富山大学工学部に34年間勤務しておりました。赴任以来、

40人クラスの徹底した少人数教育、実験・実習を重視したきめ細かい指導、5年一貫教育による技術者育成（専攻科に進学すると7年一貫教育）など高専には大学にはない良さが数多くあることを発見しました。このことは地域社会あるいは地域産業界からも認知されており、富山県内を中心とした優秀な学生が中学から富山高専に入学してきます。また、富山高専あるいは専攻科の卒業生には製造業を中心とした数多くの企業から求人があります。

工業高専は設置後40年余り（本校は42年）ですが、工業国日本を支える技術者育成という所期の目的に照らして成功した高等教育機関であると言えます。このことは今年5月に来日したOECDの視察団の評価報告書にも明記されています。

しかし、一方では、15歳人口の減少、行財政改革の促進、中高一貫校の出現などの社会情勢を考えますと高専に吹く風は追い風ばかりではありません。皆様ご存知のように、全国に55ある国立高専は平成16年4月にまとめて一つの独立行政法人「高専機構」になりました（87ある国立大学はそれぞれが法人になりました）。この法人化以来、大学同様高専も毎年1%ずつ減る運営費交付金、更には5年で5%の人件費純減など経営的に大変厳しい環境に置かれています。

その中であって、富山高専は「しっかりした教育をしている高専」、「きらりと光る研究をしている高専」であることをモットーに教職員一丸となって奮闘しております。科学研究費補助金などの外部資金の獲得も全国高専のトップクラスです。また、今年度は本校の教育プログラム「知財マインド醸成のための実体験型基礎教育 - 知的創造サイクルを支える実践的技術者の育成 -」が文部科学省の現代的ニーズ取組支援プログ

ラム（現代GP）に採択され、「富山県の産業活性化を担うフレッシュエンジニアの独創性や実践力を育成するプログラム」が経済産業省の高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業に採択されました。これらは、いずれも本校教職員の技術者教育にかける情熱と力量が高く評価された結果であり、誇るべきことであると思っています。更に、地域連携にも力を入れ、昨年10月には地域産業界との円滑な連携・交流を深めることを目的として「富山高専技術振興会」を設立いたしました。現在は、会員企業数も110社を数え、共同研究をはじめとする研究活動やインターンシップなどの教育活動に多大な支援をいただいています。他にも、平成16年に本校の教育プログラム「エコデザイン工学」がJABEE認定を受け、また中国東北大学や韓国慶熙大学と国際学術交流協定を結び、エコテクノロジーに関するアジア国際シンポジウム（ASET）開催も今年で13回を数えるなど教育研究の国際化にも引き続き力を注いでいます。

ただ、追い風ばかりではない社会情勢の中にあって、高専機構は今年9月に全国55高専の再編計画を打ち出しました。今後、教育研究並びに卒業生の質を落とさずに高専が持続的に発展していくためには、世間の評価が高い今こそ改革に着手すべきであるというのが理由です。その再編計画では、富山高専は富山商船高専と統合再編することとなりました。平成21年4月の学生受け入れを目途に両校で新富山高専の姿を検討することになり、この10月にその作業に入りました。

皆様の母校富山高専がどのような高専に生まれ変わるのか、あまり時間はありませんが、本校の教職員・学生・保護者、同窓会の皆様、そして地元自治体や教育界・産業界のご意見を聞きながら、『新たな飛躍を目指して』生まれ変わるべく最大限の努力を傾注して参りたいと考えています。同窓会の皆様には、引き続きご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。また皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

母校での研修

富山高専NEDOフェロー 高松 さおり

私が富山工業高等専門学校を受験しようと思ったのは、高校受験も間近になった夏の終わり頃でした。それまでは、高専について全く知識がなかったのですが、当時、社会の環境問題に対する意識の高まりの影響を受けて、将来は環境問題の解決に貢献できる技術者になりたいと考えていた私に、『富山高専ならば将来になりたい職業にきっとつける』と担任の先生が勧めて下さったことを今でも覚えています。

富山高専、同専攻科では、水環境中のフッ素化合物の固定・分析技術の開発に関する研究に携わり、その後、この研究課題は産学連携が構築されました。また、金沢大学大学院進学後には活性汚泥処理の安定化・高度化に関する研究で、民間企業と共同研究を行ってきました。以上の経験を通して、学生の立場から産学連携に携わってきましたが、今年からはNEDOフェローとして、産学連携コーディネータの研修を母校である富山高専で行うことになり大変嬉しく思っています。

ところで、みなさんはNEDOフェローとは一体なんだろうと思われたのではないのでしょうか。NEDOとは、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (New Energy and Industrial Technology Development Organization) の略称であり、産業技術およびエネルギー・環境分野における科学技術開発の一端を担う独立行政法人です。NEDOフェローは、次世代を担う若手研究者が専門分野や組織を越えて、様々な産業技術課題に対して幅広い視野と経験を有し、技術シーズを実用化・事業化につながることでできる産学連携人材の養成を図ることを目的に、全国の受入機関先に配属されています。高専では、全国55高専の中で唯一富山高専だけが、NEDOフェローを受け入れています。

近年、大学等を取り巻く環境が大きく様変わりしています。科学技術基本法の制定と三期の科学技術基本計画、それに

伴う公的な研究開発予算および競争的研究資金の拡大、評価制度の導入、産学連携と知的財産の重要視など、様々な改革がなされています。独立行政法人や国立大学法人に支給する運営交付金が前年度比1%で削減されており、このような厳しい背景のもと、東大を含めた国立大学等の教育機関は今後、一層の外部資金獲得を迫られています。

産学連携というと、すぐにお金儲けのイメージが先行してしましますが、高専における真の産学連携の意義とは、産業界との交流を通じて、学生が社会の厳しさを知ることによって次世代を担う技術者として成長し、ひいては優れた『人財』として地域の活性化に貢献できる人間を育てる事であると私は考えます。ですから、この3年間の研修を通して、私自身も大きく成長するとともに、まだ見習いではありますが産学連携コーディネータとして母校の発展に貢献できるよう尽力したいと思っています。

北日本新聞 9月26日(火) 掲載

富山高専が産学連携マガジン



富山高専の産学連携プロジェクトの広報誌「T-MAGAZINE」

富山高専は昨年十月、推進を旨し「富山高専地元産業界との産学連携 技術振興会」(会長・田中一郎田中精密工業社長、会員百十

富山高専は産学連携プロジェクトに関する広報誌「T-MAGAZINE(ティーツーマガジン)」を発刊した。年三回刊行し、高専の産学連携の取り組みや学内研究者を紹介する。

年3回、企業に配布

富山高専は昨年十月、推進を旨し「富山高専地元産業界との産学連携 技術振興会」(会長・田中一郎田中精密工業社長、会員百十)を設立。共同研究や技術相談などさまざまな事業を展開している。富山高専の取り組み

を県内外に広く知ってもらうと、国立高専で初めて産学連携に関する広報誌を発刊した。第一号は米田政明校長のインタビューのほか、全国の高専で初めて同校に配属されたNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)フェローの高松さおりさん、独自の若手技術者養成プログラムなどを紹介している。

変形A4判六頁で二千字発行し、企業や関係機関などに配布した。問い合わせは富山高専地域連携係、電話076(403)5486。

共同研究 積極PR

E3同窓会

日時：平成17年7月16日(土)～17日(日)

場所：山代温泉 ホテル百万石

出席者：11名

上田 健一、金尾 誠一、川原 久雄、澤田 章治、
高田 哲雄、館谷 清孝、中島 潔、野村 正信、
横山 勉、吉崎喜久雄、米田 守

私達E3(電気3期生：昭和46年卒業)同級生は、富山高専を卒業してからやがて35年になろうとしています、55歳という人生の節目を迎え今ある我々の姿の原点であります高専時代の仲間と集い、祝いあいたいとの思いから開催されました。

11名という少な目ではありましたが、参加した面々は今回都合で参加出来なかった方達の方まで高専時代の思い出話や近況報告など盛況に語り合いました。

ただ、皆さんの体力の低下からか心身の成長からか紳士的であり、また節度ある飲み方でありました。

E3同窓会は非定期的に1泊で開催され、また平成15年から毎年富山で新年会を行っています。その他東京・大阪ではその都度集いがある等親交を深めていることをご報告申し上げます。



今後共永きに亘り続けて行く所存でありますので、よろしく御支援の程お願い致します。

追伸 今年同学の金尾誠一さんがネパールのギャジ・ガン峰に日本山岳会富山支部の仲間達との登頂に成功しました。

山崎正喜さん(1C) 定年退職慰労会

平成17年10月14日(金)にSTHD内同窓会にて、工業化学科1回生山崎正喜さんの定年退職慰労会を高岡の、会社保養所「まんよう荘」にて行いました。今回は三協アルミ、STプロダクツ等の高専OB、総勢17名の参加でした。グループ統合になってからは初めての試みで、懐かしい方や、初めて御目にかかる方もいらっしゃり、とっても楽しいひと時となりました。

山崎さんの在籍中の学校や、寮の様子をお聞きしたり、当時の学校敷地内の写真を見せていただきました。図書館や竹名館、第二体育館はまだなく私の在学中様子と全く異なっており驚きでした。山崎さんはじめ先



輩方の会社での活躍を聞いたり、学生当時の話、先生の話...話は尽きることなく、あっという間でした。山崎さんの後に続き、会社い貢献できるよう頑張っていきたいと思います。次回はさらに参加者が増え回数も重ねていけることを祈って終了しました。

29C 吉田 佳世

K29クラス会 2005 & 2006

平木 岳人

桜はすっかり散ってしまうものの、晴天に恵まれたゴールデンウィーク。一昨年に続き、昨年('05)、今年('06)と恒例のクラス会を開催することができました。

出席者が23人に上った昨年は、坂本先生をお招きしました。現在では一児の母となった森雅美さんの結婚宣言が飛び出すと、そこは結婚式前夜祭の様な盛り上がりとなりました。

今年の出席者は昨年を上回る25人、ゲストには高橋先生をお招きして昨年同様の賑やかな時間を皆で楽しみました。大学院修士課程を修了した仲間の新たな進路先報告をはじめ、高橋先生の教授昇進祝いなど新しい話題に盛り上がりました。なかでも私が一番印象に残ったのは、先生が卒業研究を担当した3人がビールを片手に先生を囲み、懐かしい話題で談笑している姿でした。本当に楽しそうに話す会話にも、先生への感謝の気持ちが随所に強く表れていました。

変わらない絆と変わっていく話題や周辺環境が、今回のクラス会をいっそう楽しみにさせてくれます。



同窓会会計報告

平成17年度 決算報告

収入の部

項目	決算額	摘要
繰越金	696,541	
同窓会会費	1,670,000	167人×1万円
利息	1,100	H17年3月31日時点
名簿販売収入	1,235,000	5,000円×700冊の売上見込み、実際は5,000円×243冊+総会でのバラ売上4冊=247冊
特別事業積立金からの繰入金	2,000,003	定期預金より200万円+利息3円
計	5,602,644	

支出の部

項目	決算額	摘要
総会費	239,657	
理事会費	87,447	常任理事会を含む
学生会助成費	110,000	高専祭広告の集金が無かった。部活動助成金(弓道部4万円、卓球部5万円、ピアノ同好会2万円)
ロボコン助成費	60,000	2件分(¥30,000×2件)
渉外費	0	出張が無かった。
事務局運営費	0	外部に仕事を依頼せず。
会報発行活動費	834,637	総会案内を含む
定期協議会費	27,432	三者懇談会費
支部活動助成費	100,000	クラス会助成費(4件)+新卒クラス理事への補助金(4学科+2専攻で6万円)
祝賀壮行会費	125,000	卒業祝賀会費11万円+花代1万5千円
講演会費	20,000	2005/12/14に同窓会主催の講演会を開催。その講演料2万円
JABEE支援費	178,500	JABEE認定記念幕
名簿発行費	3,020,448	製版費(1,350冊)+データ校正費、発送費、郵便費、名簿再販送料、振込み手数料など
予備費	90,525	技術振興会入金(90,525円)
計	4,893,646	

平成18年度 予算

収入の部

項目	決算額	摘要
繰越金	708,998	
同窓会会費	1,670,000	167人×1万円
利息	1,000	
計	2,379,998	

支出の部

項目	決算額	摘要
総会費	250,000	
理事会費	100,000	常任理事会を含む
学生会助成費	150,000	クラブ活動・高専祭
ロボコン助成費	60,000	2件分
渉外費	30,000	
事務局運営費	200,000	手当等
会報発行活動費	850,000	総会案内を含む
定期協議会費	50,000	三者懇談会費を含む
支部活動助成費	150,000	関東支部・クラス会助成
祝賀壮行会費	200,000	
講演会費	50,000	
負担金	100,000	技術振興会会費
予備費	189,998	
計	2,379,998	



石山会長

平成18年度 富山高専同窓会事業計画

同窓会が、会員に身近なもので、気軽に参加できる体制作りと在校生を含めた広報、P. R. 活動を積極的に実施する。

又、教育後援会及び学校側と共に富山高専のより良い伝統の構築を目指して活動する。設立された技術振興会のP. R. と支援。

具体的事業

1. 総会・理事会・常任理事会の更なる活性化

理事・常任理事等役員には、それぞれの立場での自覚を促すと共にきめ細かい出席要請を実施する。

今年の総会開催予定日である11月3日(文化の日)は、三連休の初日であり、会則どおり開催する。

例年どおり、総会に先立ち講演会を実施する。

2. 会報の充実

会報編集委員会の充実により、より親しまれる会報を目指す。

3. ホームページの充実

気軽な会員が書き込みできる様、広報する。

4. 関東支部総会の開催

第2回目の支部同窓会を開催する。

5. クラス会・クラブOB活動への助成

同窓会活動の活性化につながるクラス会・クラブOB会開催に対し助成する。

助成金(1万円)の拠出条件

10名以上によるクラス会・クラブOB会の開催

写真と会報用の簡単な原稿を提出

クラス代表(理事)・クラブOB会代表からの申請(年1回のみ)

6. 富山高専・教育後援会・同窓会の三者懇談会の開催

年間行事の打合せ等、情報の交換により、富山高専のより良い伝統の構築を目指して活動する。

7. 卒業・修了式後の祝賀壮行会の共催

教育後援会との共催、学校の協力により祝賀壮行会を例年どおり実施し、同窓会の卒業生に対するP. R. そして積極的な参加を訴える。

8. 在校生・学生会への積極的助成

在校生に活気を与える積極的な助成を考慮してゆく。

9. ロボットコンテストへの助成

富山高専のロボットコンテストにおける成績向上を目指して同窓会としてできる支援を考慮する。

10. 在校生への後援会の実施

卒業生の社会での活躍をじかに感じてもらい、同窓会をP. R. する。

11. 全国組織への積極的参加

「ヒューマンネットワーク高専」からの情報を伝達し同窓会活動の一助とする。

12. 富山高専技術振興会のP. R. と支援

技術振興会の設立趣旨を会員に広くアピールすると共に同窓会員も積極的に振興会へ参加してもらう様広報する。

技術振興会の事業に対しても積極的に参加する。



定 時 理 事 会

事務局からのお知らせ

◎クラス会・クラブOB会の助成制度について

同窓会では今年度よりクラス会・クラブOB会の助成制度を設けました。この制度は会員間の交流を活性化することを目的としています。助成を受けることができるのは次の条件を満たしているクラス会です。

- 同じクラスの会員が10人以上そのクラス会に出席すること。
- 助成は1つのクラス(クラブ)につき年に1回のみです。
- 助成の申請はクラス(クラブ)の理事を通して行ってください。各クラスの理事は次の表のとおりです。
- 助成を受けた場合にはクラス(クラブ)会の報告書とクラス会の様子を写した写真を提出してもらいます。
- 申請はクラス(クラブ)会を行った年度内なら可能です。
- 助成金は原則として定例理事会にて交付します。理事が代理が出席してください。
- 助成は年間10件程度とします。

◎助成金申請方法

助成金の申請は次の項目を記載した申請書と写真を同窓会事務局へ持参してください。

- クラス(クラブ)名(M3, CK2のように)
- クラス(クラブ)の理事名と捺印, 理事の連絡先(FAXかE-Mail)
- クラス(クラブ)会参加者名
- クラス(クラブ)会の様子など(400文字程度)
- クラス(クラブ)会のときの様子を写した写真(添付)

申請書の書式は特に定めませんが同窓会のホームページに雛形を置いておきますのでそれを利用してください。結構です。

同窓会理事名簿

卒業年	回	氏名	回	氏名	回	氏名	回	氏名
1969	M 1	後明 康孝	E 1	田中 正人	C 1	長谷川 登		
1970	M 2	永森 真一	E 2	大巻 憲五	C 2	清田 幸造		
1971	M 3	石山 彰雄	E 3	中島 潔	C 3	飛世 修		
1972	M 4	丸山 治久	E 4	木村 正人	C 4	柴 基雄		
1973	M 5	山崎 秀一	E 5	高木 正之	C 5	小川 和男		
1974	M 6	布村 敏夫	E 6	金子 信一	C 6	水林 幸雄	K 1	川井 祐賢
1975	M 7	寺井 達郎	E 7	天坂 幸治	C 7	広野 勉	K 2	宮崎 喜信
1976	M 8	宮越 成幸	E 8	富川 功	C 8	松永 政次	K 3	青木 宏志
1977	M 9	浦田 敏明	E 9	池上 久晴	C 9	牧野 啓行	K 4	磯野 忠
1978	M10	浅地 暁夫	E 10	秋田 年哉	C 10	永代 尚武	K 5	金井 毅俊
1979	M11	川開 国夫	E 11	吉田 守	C 11	長江 真司	K 6	中川 泰造
1980	M12	藤田 秀人	E 12	深山 信一	C 12	長越 進	K 7	福田 稔昭
1981	M13	木下 伸治	E 13	開田 康浩	C 13	八橋 謙二	K 8	奥野 耕市
1982	M14	松本 吉明	E 14	高橋 靖人	C 14	坂本 智司	K 9	菅野 英雄
1983	M15	田嶋 実	E 15	佐藤 圭祐	C 15	高松 雅春	K 10	北島 博之
1984	M16	清水 龍人	E 16	佐野川広嗣	C 16	森川 光雄	K 11	鋪田 博紀
1985	M17	森川 幸夫	E 17	中川 泰	C 17	松原 重雄	K 12	山本 肇
1986	M18	坪川 幾夫	E 18	沢井 博明	C 18	浅井 清	K 13	山本 高志
1987	M19	副島 悟	E 19	竹林 望	C 19	山西 誠	K 14	藤井 義昭
1988	M20	山野 茂	E 20	新村 努	C 20	柴野 勝宏	K 15	山口 正志
1989	M21	西野 一也	E 21	柿岡 史恭	C 21	竹内 輝紀	K 16	長谷川雅一
1990	M22	河原 治	E 22	鎌仲 秀一	C 22	柄折 智之	K 17	清水 政孝
1991	M23	五島 康	E 23	黒崎 勝彦	C 23	佐伯 隆司	K 18	広本 浩一
1992	M24	阿部 剛	E 24	横井 英之	C 24	荒井 毅宏	K 19	高畑 英夫
1993	M25	日尾 武志	E 25	久世 晃司	C 25	久才 慎一	K 20	藤丸 陽一
1994	M26	西野 武弥	E 26	高柳 良太	C 26	浅川 典昭	K 21	藤岡 剛
1995	M27	米澤 正昭	E 27	上田 智美	C 27	吉田 功	K 22	近藤 智幸
1996	M28	瀬戸 賢二	E 28	藤原 健二	C 28	堺井 哲朗	K 23	藤井 済
1997	M29	桑下 茂雄	E 29	澤木 啓之	C 29	川辺 真弘	K 24	河下 竜世
1998	M30	高野 正章	E 30	堀 宏美	C 30	村中亜由美	K 25	水林 舞
1999	M31	石田 敏晶	E 31	佐藤 和也	C 31	北尾 敦克	K 26	川口 健治
2000	M32	菓子 貴晴	E 32	山口 良博	C 32	窪田 直彦	K 27	高崎 慎一
2001	M33	松永 友宏	E 33	荒井 秀允	C 33	枝廣まゆみ	K 28	水林 飛鳥
2002	M34	廣瀬 智博	E 34	曲淵 仁美	C 34	蜷川 倫乃	K 29	平木 岳人
2003	M35	橋本 芳樹	E 35	高野 維子	C 35	森田 倫世	K 30	熊田 俊吾
2004	M36	清水 和宣	E 36	城光 力	C 36	高井千絵子	K 31	吉田 行野
2005	M37	小田美由紀	E 37	齊藤 洋輔	C 37	川 さやか	K 32	高田 大亮
2006	M38	朝岡 知隆	E 38	三上 拓真	C 38	山本 麻未	K 33	庄司 裕道

専攻科

卒業年	回	氏名
1995	ME 1	坂井 歩
1996	ME 2	道用 浩樹
1997	ME 3	中水 康之
1998	ME 4	稲垣 聡
1999	ME 5	佐竹 克夫
2000	ME 6	西野 武弥
2001	ME 7	武埴 佳人
2002	ME 8	林 俊一
2003	ME 9	竹川 誠
2004	ME 10	山田 大介
2005	ME 11	野口 晃史
2006	ME 12	炭谷 貴裕
1995	CK 1	古井 秀行
1996	CK 2	高稲 直宏
1997	CK 3	西島 昭弘
1998	CK 4	矢野 祥子
1999	CK 5	前田 功一
2000	CK 6	児玉 知子
2001	CK 7	岩井 徹哉
2002	CK 8	山本 圭一
2003	CK 9	南地 さゆり
2004	CK 10	平木 岳人
2005	CK 11	小倉 孝太
2006	CK 12	木下 早苗

役員名簿

	回生	氏名
会長	M 3	石山 彰雄
副会長	M 4	丸山 治久
副会長	E 6	金子 信一
常任理事	M 6	布村 敏夫
常任理事	E 7	天坂 幸治
常任理事	M 8	宮越 成幸
常任理事	K 8	奥野 耕市
常任理事	E 7	長田 晃
常任理事	M19	増山 圭一
常任理事	M22	河原 治
常任理事	C 24	中島 栄次
監事	C 3	米谷 正
監事	M14	本江 哲行

理事に連絡がつかなかったり忙しくて手続きをしている暇がない、というときには下記の方法で理事を交代することができます。

1. 理事を交代したいとき。新しい理事を選んで新理事と旧理事が連名で同窓会事務局まで交代する旨を書面で伝えてください。
2. 理事に連絡がつかないとき。あるいはまだ決めていないとき。理事をやってもよい人は同窓会事務局まで書面で伝えてください。

ロボコン報告

4M 山中法文



4月、NHKから平成18年度のロボコンのルールが発表された。例年になく難しいものであった。

各都道府県の名産品（ふるさとオブジェ）を運びながら600mmのお堀を渡る、シーソーを渡る、スラローム走行などと盛りだくさんだ。

中でも「ロボットが縄跳びを行う」その言葉を目にしたときメンバーの殆どが絶句した。

5月、今年は発表されたアイデアの数が去年よりも多かった、しかし「本当に実現できるのか？」そんな言葉がいつまでも残った。

そして、6月の中旬ごろからロボットの製作が始まった。予想通り縄跳びロボットの製作は難航し、設計図は何度も書き直された。

7月、夏休みに入り毎日午前9時から午後5時まで作業を行った。「最高気温更新」そんな言葉にめげている暇もなかった。今年は活動場所を移動することもなく制作することが出来た。

夏休みも終わり授業が再開した、期末テストも終わり大会まで残り1ヶ月を切った現在、急ピッチで開発を進めている。製作が難航していた縄跳びロボットも3度のフルモデルチェンジを行いようやく飛び上がる事が可能となった。NHKから与えられた課題はクリアできそうなメドは立ってきた。5月ごろの「本当に実現できるのか？」そんな言葉はかなり薄れてきた。

3年間連続でロボットの操縦を行ってきて過去を振り返って見ると苦い思い出が多い。

15年度の地区大会、自分にとって初めてのロボコン。本番直前に走行系の回路が故障してロボットは動くことはなかった。開いた口がふさがらないとはこのことを言うのかというほど驚いた。

16年度の地区大会、自分の操縦ミスが原因で一回戦敗退、仲間たちの半年の苦労が水の泡となった。ロボコン初の悔し涙で二年目は幕を閉じた。

17年度の地区大会、自分の操縦するロボットが軽くトラブルに見舞われるものの一回戦突破。そして迎えた2回戦、突然の回路の不調でロボットは動かなくなり敗退した。二度目の悔し涙であった。

4年目のロボコンはどのような結果になるのかはまだ誰にも分からない少なくともロボットの製作ペースは例年よりも格段にスピードアップしている。

今年は地区大会で苦い思いでは残したくない「まだ来年がある」などと言っている場合ではない、一年一年がすべてである。

「全国大会へ行こう」それを合言葉に私たちは連日作業に取り組んでいる。



編集後記

富山高専のホームページ開いてみて下さい。



で最初に出てくる項目をクリックして下さい。

右の画面がトップページです。同窓会のホームページは、管理者がいがないため、更新されないまま休止状態ですが、富山高専の現状を知るには、たまに載る新聞記事などよりも確実に興味深い内容がいっぱいですよ。

なお、同窓会では、クラス会やクラブOB会等の情報を求めています。富山高専のホームページには載っていない卒業生だけが知る卒業生同志のコミュニケーションの場として「ほんごう」を活用してください。

できれば、E-mailで写真も添付して送ってください。情報提供者には、助成金も出ますので、ぜひ、お知らせ下さい。

E-mailでの連絡先 nakajima@toyama-nct.ac.jp (中島教官)

FAXでの連絡先 FAX (076)492 - 3859

